

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2021年7月）

目 次

新型コロナウイルス

◆7月31日現在の感染情報等	2
◆6月の変異株ゲノム解析結果	2
◆憲法裁判所による検疫措置の違憲審査	2
◆反ワクチン・デモの実施	3
◆ワクチン未接種者の感染率	3

内 政

◆憲法裁判所による繰り上げ総選挙の国民投票の合憲性に関する決定	4
◆政党支持率調査結果	4

外 政

◆ローマ教皇のスロバキア訪問の正式発表	5
◆欧州委員会の気候変動対策関連法案パッケージ「Fit for 55」に対するスロバキアの反応	5
◆ノルドストリーム2（NS2）に関する米独共同声明に対するスロバキアの立場	6

東京五輪

◆チャプトヴァー大統領主催によるスロバキア選手団壮行式典の開催	6
◆東京オリンピックでのスロバキア選手のメダル獲得	7

経 済

◆V4高速鉄道計画に関するドレジャール交通相の発言	7
---------------------------	---

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

新型コロナウイルス

◆7月31日現在の感染情報等

- (1) 7月のPCR検査に基づく新規感染者数は1045名（6月は1686名）、7月の死者数は29名（6月は145名）。
- (2) 7月31日時点のPCR検査に基づく累積感染者数は39万2704名（前日比+57名）。7月31日の検査数は5864件。
- (3) 7月31日時点の累積死者数は1万2540名（前日比+0名）。
- (4) 7月31日時点の1回目の累積ワクチン接種者数は226万7380名（前日比+2041名）、2回目の同接種者数は201万8268名（前日比+5207名）。

◆6月の変異株ゲノム解析結果（7月12日付公衆衛生局プレスリリース）

公衆衛生局等は、6月の陽性サンプル1148件のゲノム解析を実施したところ、結果は以下のとおり。

- (1) アルファ変異株（英国で最初に確認された変異株B.1.1.7）：1120件（92%）
- (2) ベータ変異株（南アフリカで最初に確認された変異株B.1.351）：4件
- (3) デルタ変異株（インドで最初に確認された変異株B.1.617.2）：15件
- (4) その他：9件

◆憲法裁判所による検疫措置の違憲審査

【7月15日付スメ紙】

7月14日、憲法裁判所は、野党「方向-社会民主主義（Smer-SD）」の要請を受け入れ、7月9日以降の検疫措置が憲法で保障されている基本的自由に違反していないか審査を開始するとともに、審査結果が出るまでの間は同検疫措置の効力を一時的に停止することを決定した。

7月9日以降の検疫措置は、ワクチン未接種者に対して帰国後の自主隔離を命じる一方で、ワクチン接種者に対しては自主隔離を免除している。ただし、政府は、ワクチン接種を促進すること等を目的に、8月9日までの移行期間の間は、1回目接種者に対しても自主隔離の免除を認めていた。憲法裁判所は、未接種者に対して自主隔離が義務づけられている一方で、抗体ができていないにも関わらず1回目接種者の自主隔離が免除されていることを問題視している。

【7月16日付公衆衛生局布告】

7月16日、公衆衛生局は、憲法裁判所による違憲審査開始決定に基づき、7月19日以降の検疫措置の変更を発表した。主な変更点は以下のとおり。

(1) 2回目のワクチン接種を受けてから14日間以上が経過していない者、1回接種型ワクチンを受けてから21日間以上が経過していない者に対して、入国後14日間の自主隔離、又は入国後5日経過してからのPCR検査及び陰性証明を取得するまでの自主隔離が義務づける(従来の措置では、1回目のワクチン接種を受けた者は自主隔離が免除されていた)。

(2) ただし、7月9日までに1回目のワクチン接種を受け、8月2日午前6時までにスロバキアに入国する者は、入国初日以降にPCR検査を受けて陰性の場合、自主隔離を終了できる。

【7月29日付公衆衛生局プレスリリース】

憲法裁判所は、7月19日以降の検疫措置のうち、「7月9日までに1回目のワクチン接種を受け、8月2日午前6時までにスロバキアに入国する者は、入国初日以降にPCR検査を受けて陰性の場合、自主隔離を終了できる(上記7月16日付公衆衛生局布告の(2)に該当)。」の規定の効力も停止した。

◆反ワクチン・デモの実施

【7月23日のデモ(7月23日付TASR通信)】

7月23日、ブラチスラバ市の国会前で、ワクチン接種者優遇措置法案に反対する数百人規模のデモが実施された。同法案の骨子は、今後感染第三波が到来する際に、ワクチン接種者は飲食店の入店や通勤の際に陰性証明書の取得が免除されるというもの。一部デモの参加者は国会への進入を試みたため、警察が催涙スプレーを使用してデモ隊を排除した。野党「方向-社会民主主義

(Smer-SD)」及び「我々のスロバキア(LSNS)」は、同デモを支持するコメントを出している。7月25日、国会は同法案を可決した。

【7月29日のデモ(7月29日付TAS通信)】

7月29日、ブラチスラバ市の大統領宮殿前で、ワクチン接種、マスク着用義務、政府規制措置等に反対する1000~1500人規模のデモが実施された。デモの参加者は、市中心部の道路を占拠したため、市中心部の交通は長時間麻痺し、公共交通機関に遅れが生じた。与党の一部政治家は、デモに介入しなかった警察の対応を疑問視している。警察は「市内には多くの観光客で溢れており、警察がデモに介入するのは困難であった」と弁明した。ヘゲル首相は「全ての人々が自分の意見を表明する権利があるが、他者の自由(交通の往来)を制限すべきではない」と述べた。

◆ワクチン未接種者の感染率(7月29日付スメリ紙電子版)

戦略及び分析研究所(ISA。首相府管轄)によれば、5月1日~7月5日の新規感染者1万8135人のうち、ワクチン未接種者が91%を占めてお

り、1回目ワクチン接種者は7%、2回目ワクチン接種者は2%に留まった。

内 政

◆憲法裁判所による繰り上げ総選挙の国民投票の合憲性に関する決定（7月8日付スメ紙）

5月3日、野党「方向-社会民主主義（Smer-SD）」及び「声-社会民主主義（Hlas-SD）」等は、繰り上げ総選挙の実施の賛否を問う国民投票を求める約58万5000人の署名を集めて大統領府に提出した。これに関し、5月13日、チャプトヴァー大統領は、国会会期短縮による繰り上げ総選挙の実施を国民投票の対象にすることができるか否かについて、憲法裁判所に審査を要請した。

7月7日、憲法裁判所は、繰り上げ総選挙の実施の賛否を問う国民投票を行うことは憲法違反の可能性があり、同国民投票は実施できないとの決定を下した。憲法裁判所の同決定の骨子は以下のとおり。

（1）繰り上げ総選挙に関する国民投票は、憲法制定及び法律制定機関としての国会の機能に関する憲法規定に抵触し、また、憲法の中核を成す権力分立に違反する可能性がある。

（2）同国民投票は、国会会期が4年間で国会は大統領によって解散されるという憲法規定に抵触する可能性がある。

（3）国会が、憲法を改正し、国民投票による国会会期短縮を可能とする憲法規定を追記する場合、国民が国会会期短縮（繰り上げ総選挙）を求めることができる。（注：憲法改正には国会議員の5分の3（90人）以上の賛成が必要。）

7月7日、チャプトヴァー大統領は、憲法裁判所の決定後に、「憲法裁判所に審査を要請せずに国民投票を布告する場合、国民投票の結果が無効になる可能性があった」と述べるとともに、「国会は、繰り上げ総選挙に関する国民投票を実施するために憲法を改正することができる。国会が憲法を改正し、国民投票の実施を決議する場合、自分は国民投票を布告する」と付言した。

◆政党支持率調査結果（7月14日）

世論調査機関AKOによる政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。野党Hlas-SDとSmer-SDの支持率の合計は、引き続き30%を超えている。

政党	AKO	2020年選挙
Hlas-SD（声-社会民主主義）	20.8%(41)	—
SaS（自由と連帯）	13.8%(27)	6.22%

Smer-SD（方向-社会民主主義）	10.9%(21)	18.29%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	8.8%(17)	25.02%
PS（プログレッシブ・スロバキア）	8.4%(17)	※6.96%
Sme rodina（我々は家族）	7.8%(15)	8.24%
KDH（キリスト教民主運動）	6.2%(12)	4.65%
Aliancia（同盟）（※ハンガリー系新党）	4.3% (-)	—
LSNS（我々のスロバキア）	3.5% (-)	7.97%
Za ludi（人々のために）	3.1% (-)	5.77%

※PS/Spolu としての得票率。PS は、2020 年国会総選挙に Spolu(共に)と政党連合を形成して参加した。

外 政

◆ローマ教皇のスロバキア訪問の正式発表（7月6日付及び22日付スメ紙）

7月4日、教皇フランシスコは、9月12～15日にスロバキアを訪問する旨正式に発表した。ローマ教皇のスロバキア訪問は、2003年以来4度目のことになる。7月21日付ローマ教皇庁プレスリリースに基づく主な訪問日程は以下のとおり。

9月12日：ブラチスラバ到着。

9月13日：ブラチスラバ滞在。チャプトヴァー大統領、コラル国会議長、ヘゲル首相等との会談。マルティン大聖堂でのカトリック関係者との会合等。

9月14日：プレショウでビザンツ式典礼に出席。コシツェのロマン集合住宅「Linux IX」訪問等。

9月15日：シャシュティーン（トルナバ県。スロバキア最大級の巡礼地）で教皇ミサを実施。

◆欧州委員会の気候変動対策関連法案パッケージ「Fit for 55」に対するスロバキアの反応（7月14日付首相府プレスリリース）

7月14日、欧州委員会は、気候変動対策関連法案パッケージ「Fit for 55」を公表した。これに対するスロバキア首相府プレスリリースの概要は以下のとおり。

(1) 7月14日、欧州委員会は、2030年までの排出量55%以上削減目標に向けた関連法案を公表した。スロバキアは、この欧州共通の目標を完全に支持しており、同関連法案が極めて野心的なものであると評価している。

(2) スロバキアは、エネルギー貧困の拡大リスクの懸念に対処している欧州委員会の努力を前向きに捉えている。ヘゲル首相は、「新設される社会的気候基金（Social Climate Fund）が、一般家庭及び貧困の危機に瀕している者の

エネルギー支出を抑制するための最も効果的な対策であるかどうかについては、疑問点が残っている」と述べた。

(3) ヘゲル首相は、「気候変動対策目標を達成する上で生じる負担の配分に関する重要な基準は、国が豊かであるか否かである。つまり、貧しい国に対する負担は軽減されるべきである」と述べた。

(4) ヘゲル首相は閣僚に対し、同関連法案の経済及び財政面の影響を注視するように指示した。今後、EU各国において、同関連法案についての分析及び議論が行われる。スロバキアは、炭素税の導入及び原子力への投資の持続可能性に関する問題についても解決策を見出していくつもりである。

◆ノルドストリーム2（NS2）に関する米独共同声明に対するスロバキアの立場（7月22日付外務・欧州問題省プレスリリース）

7月21日、米国とドイツは、ロシアとドイツを結ぶ建設中のガスパイプライン「ノルドストリーム2」に関する共同声明を発出した（注：スロバキアは、ノルドストリーム2の完成後に、ロシアからウクライナ及びスロバキアを経由し欧州諸国に繋がるパイプラインのガス供給量が減少することや、ロシアがノルドストリーム2を地政学的に利用することを懸念している）。これに対するスロバキア外務・欧州問題省プレスリリースの概要は以下のとおり。

(1) コルチョク外相は、「米独共同声明により、我々が共に留保を表明してきたノルドストリーム2（の完成）が現実になることが米国によって容認されたと理解している」と述べつつ、ウクライナの領土保全に対する米独の強固な支持及び中東欧のエネルギー安全保障の確約を示す措置の発表を評価した。

(2) コルチョク外相は、「この合意は、スロバキアの基本的な安全保障上の利益である北大西洋協力の再開するための、米独の重要なコミットメント及び政治的シグナルである」と述べた。

(3) コルチョク外相は、「同時に、米国と、特にドイツに対して、将来にわたるウクライナ経由の十分なガス輸送を維持するために、全ての影響力を行使するよう期待している」と述べた。

東京五輪

◆チャプトヴァー大統領主催によるスロバキア選手団壮行式典の開催（7月14日付大統領府プレスリリース）

7月14日、チャプトヴァー大統領、ミクレツ内務相及びナジ国防相は、大統領府後庭で行われた東京オリンピック・パラリンピックに出席するスロバキア選手団の壮行式典に出席した。チャプトヴァー大統領は、パンデミックによる不安定な状況の中で東京オリンピック・パラリンピックに向けて準備を続け

てきたスロバキア人選手を賞賛するとともに、同大会でのスロバキア人選手の活躍を祈念した。（当館注：大統領府からの招待により中川真・駐スロバキア日本国特命全権大使も出席した。）

◆東京オリンピックでのスロバキア選手のメダル獲得

7月23日～8月8日に行われた東京オリンピックにおいて、スロバキアの選手団は4つのメダル（金メダル1つ、銀メダル2つ、銅メダル1つ）を獲得した。

(1) レハーク＝シュテフェチェコヴァー (Zuzana Rehak-Stepceckova) 選手が射撃（女子トラップ個人）で金メダルを獲得。同選手は、2008年の北京五輪と、2012年のロンドン五輪でも、射撃で銀メダルを獲得していた。

(2) グリガル (Jakub Grigar) 選手がカヌー・スラローム（男子カヤック）で銀メダルを獲得。

(3) サバティーニ (Roly Sabbatini) 選手がゴルフ（男子）で銀メダルを獲得。同選手は南アフリカ出身で、夫人がスロバキア人。

(4) バラーシュ (Samuel Balaz) 選手、ボテク (Adam Botek) 選手、ミシャーク (Daniel Mysak) 選手、ヴルチェク (Erik Vlecek) 選手が、カヌー・スプリント（男子カヤック・フォア）で銅メダルを獲得。

経 済

◆V4高速鉄道計画に関するドレジャル交通相の発言（7月27日付経済新聞）

ハンガリーは、V4高速鉄道計画のフィージビリティ・スタディの結果を発表した。V4高速鉄道は、V4各国の首都を時速250～320kmで結ぶことを目的としており、ブダペストからブラチスラバの所要時間は2時間以内に短縮されることになる（注：現在の所要時間は2時間15分～2時間45分）。

ハンガリーの計画によれば、ブダペストのケレンフェルド駅が起点となり、ジュール（ハンガリー北西の都市）を經由した後に、ライカ（ブラチスラバに隣接するハンガリーの町）方面とウィーン方面に分岐する。その後、ブラチスラバとクーティ（チェコ国境のスロバキアの町）を經由し、チェコ方面に接続する。ブダペストとブラチスラバを結ぶ既存の路線は、ライカではなくシュトゥーロヴォ（ニトラ県）を經由している。ライカを經由してスロバキアに接続することで、ドナウ川沿いの複雑な地形を避けることができ、所要時間を短縮することができる。

V4高速鉄道計画のフィージビリティ・スタディは、V4各国がそれぞれ実

施することになっており、スロバキアは来年実施する予定である。ドレジャル交通・建設相は、「V4高速鉄道は優先事項ではない。鉄道事業では、他にも喫緊の課題がある」と述べているが、交通・建設省は、2022年の同フィージビリティ・スタディの予算として150万ユーロを財務省に要求している。

(了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

